

## 平成26年6月八戸市教育委員会定例会会議録

- 1 開催日時 平成26年6月24日(火) 午後1時30分
- 2 場 所 市庁本館3階 議会第1委員会室
- 3 委員氏名
- |          |         |
|----------|---------|
| 委員長      | 武 輪 節 子 |
| 委員長職務代行者 | 築 瀬 眞知雄 |
| 委員       | 岡 本 潤 子 |
| 委員       | 大 庭 文 武 |
| 教育長      | 伊 藤 博 章 |
- 4 職員氏名
- |              |              |
|--------------|--------------|
| 教育部長         | 佐 藤 浩 志      |
| 教育部次長兼教育総務課長 | 澤 田 多嘉男      |
| 教育部次長        | 嶋 脇 郁 夫      |
| 図書館長兼市史編纂室長  | 藤 田 俊 雄      |
| 学校教育課長       | 齋 藤 信 哉      |
| 教育指導課長       | 正部家 光 彦 (欠席) |
| 社会教育課長       | 田 中 勉        |
| 是川縄文館副館長     | 前 田 美智子      |
| 総合教育センター所長   | 木 村 一 夫      |
| 博物館副館長       | 小笠原 善 範      |
| 図書館副館長       | 千 葉 玲 子      |
| 教育総務課参事      | 尾 崎 雅 祥      |
| 学校教育課参事      | 茨 島 隆 (欠席)   |
| 東地区給食センター所長  | 中 里 親 弘      |
| 西地区給食センター所長  | 清 川 彦 一      |
| 博物館参事        | 古 里 淳        |
| 教育総務課主幹      | 松 橋 洋        |

(事務局員) 教育総務課主査 佐藤 正樹

武輪委員長	<p>ただいまから、平成26年6月の教育委員会定例会を開会いたします。  本日の議事録署名は大庭委員を指定いたします。  それでは教育長から、主な会議・行事等について説明をお願いいたします。</p>
伊藤教育長	<p>(資料に基づき説明)</p>
武輪委員長	<p>ただいまの説明につきまして、ご質問などありましたらお願いいたします。</p> <p>(質疑なし)</p>
武輪委員長	<p>無いようですので、これより議事に入ります。本日提出されております議案を審議いたします。はじめに、議案第31号「八戸市学校給食審議会委員の委嘱について」事務局からの説明をお願いいたします。</p>
齋藤学校教育課長	<p>(議案第31号「八戸市学校給食審議会委員の委嘱について」に基づき説明)</p>
武輪委員長	<p>ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いいたします。</p> <p>(質疑なし)</p>
武輪委員長	<p>それでは、議案第31号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
武輪委員長	<p>ご異議がありませんので、議案第31号を原案のとおり決定いたします。</p>
武輪委員長	<p>次に、議案第32号「八戸市公民館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について」事務局からの説明をお願いいたします。</p>
田中社会教育課長	<p>(議案第32号「八戸市公民館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について」に基づき説明)</p>
武輪委員長	<p>ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いいたします。</p>

大庭委員	<p>小中野公民館は新設になりましたのでエアコンは付いていますが、今後、すでにある公民館にエアコンを導入する計画はあるのでしょうか。</p>
田中社会教育課長	<p>言うまでもなく各地区公民館は避難所になっておりますので、次に建て替えを予定しております江陽、館、それから来年以降になります根城、是川はそのような対応も含めて、将来の避難所のあるべき姿と言うんでしょうか、エアコンの設置も含めて、全室全館に設置するのは無理だと思うのですが、例えば和室に設置するとか、そのような方向を検討したいとは考えております。</p>
大庭委員	<p>そうすれば、既存の公民館については、新たにエアコンを設置するというのではなく、あくまでも新設になった場合というふうに考えてよろしいんですか。</p>
田中社会教育課長	<p>公民館は全部がだいぶ古くなってきているものですから、耐震診断で駄目だったのは4館だったんですが、その後も順次、古い順に建て替えを考えていかなければならないという方向が出ておりますので、建て替えに併せてエアコンの設置も考えていきたいと考えております。</p>
大庭委員	<p>はい、分かりました。</p>
武輪委員長	<p>他によろしいでしょうか。  それでは、議案第32号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
武輪委員長	<p>ご異議がありませんので、議案第32号を原案のとおり決定いたします。</p>
武輪委員長	<p>次に、議案第33号「平成27年度使用中学校用教科用図書の採択について」事務局からの説明をお願いいたします。</p>
嶋脇次長	<p>(議案第33号「平成27年度使用中学校用教科用図書の採択について」に基づき説明)</p>
武輪委員長	<p>ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いいたします。</p> <p>(質疑なし)</p>

武輪委員長	<p>それでは、議案第 33 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
武輪委員長	<p>ご異議がありませんので、議案第 33 号を原案のとおり決定いたします。</p>
武輪委員長	<p>以上で議案の審議は終わりました。</p> <p>次に報告事項に参ります。初めに「平成 26 年度 6 月八戸市議会定例会一般質問事項について」は、事前に資料が配付されておりますので、委員の皆さんから質問がございましたらお願いいたします。</p>
築瀬委員	<p>1 ページの藤川議員の通学路についての答弁について、感想とお聞きしたいことがあります。このことは常に取り上げられていまして、去年もこのようなことについてお話があったんですけども、資料に示されているように市内の学校区においてはいろいろな団体がこういう活動に努めてられています。自分の住んでいる類家の町内会でも、防犯協会はどこにでもあると思うんですけども、その中である一定の中心となったところを卒業した人が防犯ボランティアになって類家では活動しているんですね。防犯協会の一部にボランティアを組織しているというふうなところがありまして、現在も下校時に要所に立って見守り活動を行っています。また、どこの学校でも、登校時間帯には交通指導隊や交通安全母の会などといった方々が行っているわけです。</p> <p>こういうふう子どもたちの安全安心を守るための努力というのは、様々積み重ねられているんですけども、この答弁にあるようにボランティアの層が薄いということは、私の住んでいるところ、あるいは柏崎学区でも悩みなわけです。</p> <p>もう一つは、学校の先生方が多忙なために、昔はもっと今以上にやっていたような記憶があるのですが、先生方による郊外巡回・郊外指導といったものが、時間がないといったことで、薄くなっている状況もあるように私は感じています。その解決策というのはすぐに見つからないと思うんですけども、こういう問題は、答弁にもあるように教育委員会だけではなくて市庁内の危機管理等の関係課や警察、安全協会、防犯協会との連携が当然必要なんですけれども、私が今力を入れてほしいと思っているのは、学校内において学習指導要領の改訂でかなり指導量が多くなっている。そこで、安全教育に関する部分が、ややもすれば時間を割ける状況が前よりも減っているのではないかという気がしているんです。</p> <p>それで、こういった学校内における安全教育に関しては、今年度になってどういことを学校に働きかけているのかなと思って、もし何かそういう働きかけをしたことがあったら教えてほしいなと思います。ここにある答弁内容が羅列的で</p>

<p>沼館教育指導課 指導主事</p>	<p>全部ではないので、少し分りにくいところがあるので、何か具体的な取組事例などがあれば教えてほしいと思います。</p> <p>学校の独自の取組といますか、まず全体的な面でお話させていただきたいと思います。</p> <p>平成25年度の健康安全教室に関する県の調査では、八戸の小学校では47校中32校が、また中学校では25校中15校が、防犯協会や地区の安全協会、その他校外安全委員会など安全ボランティアの協力を得て、児童・生徒の安全な登下校に協力していただいているというような調査結果になっております。</p> <p>地区の安全の取組について具体的にアンケートに書いてきていただいている学校でいいますと、例えば集団下校訓練や校外子ども会において、子どもたちへの温かい見守りと具体的な指導をしていただくというようなことが、昨年以上に安全教育を充実させることができているという成果があります。あとは、学区の大掛かりな道路工事があったときに、交通安全対策の話題になり、その中で地域で子どもたちの安全を守っていく体制づくりができているというような取組の情報がこちらにあります。その他にも地域との取組、地域との協力など様々な情報がこちらに届いております。</p> <p>教育委員会としては、青少年グループの訪問なんですけれども、子どもたちの安全面に対するお願いという点で、自分たちの命は自分で守るんだということをもっと意識してほしいとお願いしている次第であります。やはり自分の命を自分で守るために、様々な面で自分で考えていくんだというような思考力・判断力を向上させる場を設定してほしいということをお願いしながら、学校を回っている次第であります。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>ありがとうございます。今、数値等もありましたけれども、これが他市町村と比べてどうなのかはちょっと分からないんですが、今のことに関連して言うと、青少年グループの訪問というのはそういった意味では大事なきっかけになると思います。</p> <p>それで、その際でもいいんですが、これは努力事項になるんでしょうか。さっきもちょっとお話ししたんですが、よく子どもたちが安全マップを作りますが、ところが子どもたちが分かっている先生が分からないということが無きにしも非ずではないでしょうか。だから、先生方が学区をくまなく歩くというようなことが、事故防止に非常に大事な部分を占めているのではないかと思います。例えば、長期休業中には学区を巡視する時間を設けるとか、まず先生方が学区をよく知って、子どもたちに具体的に、あそこの塀は1年生の背の高さ以上だよとか、だから曲がり角で大人からは見えるけども見えないんだよとか、具体的にそういう指導をしていただければ有り難いなと思っています。是非、青少年グループの</p>

	<p>訪問等を活用して、そのようなお話をしていただければ有り難いなと思っています。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>ありがとうございます。他によろしいでしょうか。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>3ページの給食の食べ残しの件でお聞きしたいんですけども、ここに1日大体1,300kgとあるんですけども、これは毎年比べて多くなっている数字でしょうか。この場ですぐというのは難しいかもしれないんですけども、分かる範囲で結構ですので教えていただきたいと思います。</p>
<p>齋藤学校教育課長</p>	<p>この給食残渣の1,300kgの内訳ですけども、これは各学校からのいわゆる子どもたちの食べ残しが半分です。あとの半分は、給食センターで調理した際に出る残飯です。</p> <p>この数値が毎年どうなのかという部分については、今手持ち資料が無いんですけども、これはあくまでも我々が見た部分での感想になりますけれども、やはり年々この食べ残しは減ってきているだろうと考えます。各学校での子どもたちへの指導が行き届いてきているのかなと思います。</p> <p>ただ一方では、これもやはり今の子どもたちの特徴なのかもしれませんけれども、和食のおかず、例えばひじきやすき昆布、煮物などを食べないなど。よって、センターに戻される残渣がそういったものときには増える傾向があるみたいです。ただ先ほども言ったように、各学校で残渣を少なくするための努力はしていて、その成果がだんだん見えてきているなどということは確実に言えると思います。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>ありがとうございます。そうしますと、食べ残しよりも、むしろ調理したことで出るものについて堆肥化を考えるということでしょうか。結局食べ残しは減らすことができるけれど、料理で出てくるのはどうしても減らすことができないものということになるんですけども、それでこういう堆肥化ということが出てくるのでしょうか。</p>
<p>齋藤学校教育課長</p>	<p>今回ご質問いただいた議員さんからだけではなく、これまでも給食残渣をなんとか有効活用できないかといった質問はいただいていた。例えば、各学校にコンポストを設置して、そこで堆肥を作って、それをもう一回りサイクルして学校の菜園等に使うことができないかなどですね。</p> <p>その1番の根本にあるものは、今八戸市では八戸市環境基本計画というものを策定しています。これは25年3月に第二次が策定されたんですけども、いわゆる人と自然とが共生するということを大前提にして、5つの目標を掲げていま</p>

	<p>す。その1つには、循環型社会づくりということで、一言でいうと廃棄物等を有効活用する仕組みをつくっていきましょうということが掲げられています。よって、市が所管する給食センターで出た残渣をうまく活用して資源化していきましょう。さらには今、文科省で強く打ち出している環境教育とも関連しながら、リサイクルによってできた資源を子どもたちの環境教育にも活用していけないかと。それが質問された目的だということで伺っています。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>分かりました。ありがとうございます。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>2ページの答弁内容のポツの4つ目に関連して質問いたします。学校施設は、子どもたちの場所であると同時に災害時は避難場所になるというところに関連してなんですけれども、実は高校も指定避難場所になっております。校門のところには、緑色の文字で指定避難場所と標示してあり、括弧書きで小さい文字で一時的避難所という表現になっております。高校を指定避難場所として対応をお願いしますとお願いされたときには、あくまでも市の小・中学校、そして公民館のほうが優先ですと。そして、そこで対応しきれない場合は、高校にもお願いしますということで受入れ許可をしたと認識しております。</p> <p>実際に東日本大震災のときに、その看板があるものですから、「ここ避難所ですよ」ということで高校のほうにも来ていました。ただ、実はそういう条件で受け入れていたので、先生方には「ここはあくまでも一時的な避難場所ですよ」ということで、地域の方々が来られたときの対応までは考えていなかったんですね。</p> <p>まず一つ確認しておきたいことは、そういう認識でいいのかどうか。それとも地域住民ですので、高校のほうにどんどん来られた場合は、高校側も受け入れなければならないということで想定しておかなければならないのか。その辺がうまく意思疎通がいていないと、来られた住民の方には不快な思いや不信感を持たせることになってしまうのではないかと危惧したことがございました。もちろん災害時には、市立のものであるとか県立のものであるとかは関係ない状況になりますので、いつでも受け入れられる状況は作っておかなければならないわけなんですけれども、そこで意思の齟齬があれば不信感を招いてしまうかなということを感じたことがありましたので、高校側としてはそういう認識でいいのでしょうか。</p>
<p>澤田次長兼 教育総務課長</p>	<p>現在の防災担当の考え方があるものですから、私の方で明確なお答えをできるものではないんですけれども、防災担当を経験したものとしては、第一に公民館、次に小学校、中学校という考え方でございました。それでも足りないときには高校というイメージでいますけれども、現在どのようになっているかは確認してみないと分かりません。</p>

	<p>自主避難につきましては、市民の方々が自主的に避難するというのはあるんでしょうけれども、避難所というのは、避難勧告のときには必ずこの公民館、この小学校を開けますから、危ないと感じた方は行ってくださいというものです。避難指示というのは、ここには命の危険がありますので避難してくださいというもので、その際も必ず避難所は設けてございます。ただ、小・中学校だけでも70校ありますけれども、全部はカバーできません。やはり食料とか水などということがあるものですから、相当大きな災害でない限り、一斉に全部の避難所が開くという考え方はないのではないかと思います。あくまでも集約をしていって、行政側やライフラインに携わっている業者さんが、ここには水をやろうとかここには電気を送ろうというふうな形になります。自主避難の方はたまたま行くわけなんですけれども、基本的には私どもが住民の方々にここに行ってほしいというところが避難所になります。結論から申し上げますと、公民館、小・中学校、高校の順ではないのかなと思います。</p>
大庭委員	<p>ありがとうございます。もちろん高校側がそういう非常時に入れられないということではないので誤解はしていただきたくないんですが、例えば西高なんかは新幹線が止まりましたので、すごい多くの乗客を学校の中に受け入れているんです。小・中学校もそうだったのかもしれないかもしれませんけれども、もちろんそういう対応は当然やるべきなわけですけれども、ただ今言ったようなことで意思の疎通がうまくいっていなければ、不信感などを招く可能性があるなというところを注意していただきたいと思います。</p>
澤田次長兼 教育総務課長	<p>追加でございますが、そうはいつでも看板があるものですから、市民の方が避難してきた際にはここは違うよというわけにはいきませんから、住民の方がそこに行ったときにはそれなりの対応が必要かなと思います。</p>
大庭委員	<p>それは必要だと思います。あと参考として言えば、東日本大震災のときに八戸がすごいなという印象を持ったことを一つ紹介したいと思います。</p> <p>震災の2日後、まだ連絡がうまく取れない状況の中で、八高に大型のトラックで大量の水が届けられました。物資の置き場所にしてくれということで、体育館のほとんど全面を使って積み上げたんですが、それがいつどういうふうに避難所に分配されていくか分からない状況で、まず1週間は体育館は使えないということで対応しようということでやったのですが、それから5日後に大量の食料品がきました。びっくりしたのは、市のトラック協会かどこかが連携したんだと思いますが、大型トラックが入ってくる前に小さなトラックがいっぱい来まして、トラックごとにどこの避難所に行くトラックかということを明記しているんです。ですから、一旦留め置く必要がなかったんですよ。もうその場で大型から小型の</p>



	<p>トラックにどんどん積み替えて避難場所に出て行くと。瞬く間に大量の物資が運ばれていくのを見ていて、私はすごいなと思いました。教育委員会としての範疇ではないんでしょうが、参考としてお話しました。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>ちなみに参考としてお聞きしたいんですが、市内小・中学校では、震度5以上の場合には学校に先生方が駆けつけるという形になってはいますが、高校の場合も目安として学校に駆けつける際の基準のようなものは決まっているのでしょうか。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>校長がすぐ指示を出しますが、県で統一した基準はないと思います。</p>
<p>澤田次長兼 教育総務課長</p>	<p>新しくはない情報ですが、防災に関しましては、八戸市の防災の計画ではなくて、防災計画というのは、市、警察、自衛隊、県も入るので、皆さん基準は県内は同じとなっています。基本的には無線の周波数も合わせることができますので、震度4で学校に行くのではないのかなと思います。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>ありがとうございます。いずれにしましても、起こらなければそれで幸せなことですが、もしものときのために、いろいろな形で万全な対策をとっていきたいと思っております。</p> <p>それでは、この一般質問事項に関して他にありませんでしょうか。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>8ページの図書館のことについてですけれども、ブックスタートやブッククーポンを実施されるという状況の中で、要望のところにあるのですが、子どもたちに図書館にも足を運んで欲しいと、私もそう思うんです。</p> <p>八戸市の図書館には、子どもと親と一緒に座って本を読んだり、本について話したりするという場所がなかなか無いのかなという印象があります。もしそういう場所をつくるとすれば、いろいろ話し声とかも出てきますし、スペースの問題や区切らなければならないという問題が出てくるかと思うのですが、東京のある図書館に行きましたら、きちんとそういう場所を確保していたんです。そして、そこでは子どもと保護者がその本について話したり、いろんな本を持ってきて話をしたりしていました。ちょっと声はするんですけれども、わりと自由に使えるようなスペースが確保されていて、こういう光景はいいなという印象を持ちました。スペースや音の問題を含めて可能であれば、図書館内にそういう環境があれば、もう少し本に親しむことができるのかなと感じて参りました。今の図書館の状況では、そのような場所というのはどうでしょうか。</p>
<p>千葉図書館副館長</p>	<p>図書館の中にもお話し室といたしまして、親と子が読み聞かせをし合うようなスペースは設けてございます。音がするようときには、ドアを閉めて利用するこ</p>

	<p>とも可能です。一応、本館も南郷図書館もそのようなスペースは設けてございます。要望があれば、いつでも使っていただけるようになっております。</p>
大庭委員	<p>そうですか。すみません、私も何回か行っていたんですが認識不足でした。特に土日のそのスペースの利用状況はどうですか。</p>
千葉図書館副館長	<p>それほど多くはないんですけども、お話会室ではボランティアによる読み聞かせも行っていますので、その時間には一般の方は使えないんですけども、読み聞かせが無いような状態のときには、いつでも誰でも使うことができるようになっております。その回数というのは統計的には取ってないんですけど、それほど多くはありません。</p>
大庭委員	<p>あまりその意識がなかったものですから。ありがとうございました。</p>
武輪委員長	<p>他にございませんでしょうか。</p>
武輪委員長	<p>それでは次に移ります。報告事項の(2)「国際教育交流ボランティアバンクについて」事務局からの説明をお願いいたします。</p>
嶋脇次長	<p>(資料「国際教育交流ボランティアバンクについて」に基づき説明)</p>
武輪委員長	<p>ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いいたします。</p>
岡本委員	<p>このボランティアは、同じ年代のお子さんがいらっしゃらなくてもいいということでしょうか。基本的には、お子さんがいらっしゃる家庭ということになるのでしょうか。</p>
嶋脇次長	<p>そこは決めるときに非常に迷ったところなんですけれども、あまり縛りをかけるとなかなか見つからないということで、こちらのボランティアはお子さんがある・いないに関わらず広く一般に募集をかけています。そして、小・中学校の方には、お世話になっているので、同年代で、しかももしホームステイしたところの子どもが来るのであれば、是非受け入れていただきたいという案内をしています。</p>
岡本委員	<p>市内の全小・中学生に案内文を配布済というのは、保護者のところに、全家庭に配布されているということよろしいですか。</p>

嶋脇次長	はい、そうです。
岡本委員	ありがとうございます。
武輪委員長	実際に私の家庭にも案内文は届いておりまして、登録したいと思っております。ですので、蘭州の交流団がお越しの際には是非ホームステイの受入れをしたいと考えております。
武輪委員長	他によろしいでしょうか。
武輪委員長	それでは次に「平成 26 年度『南部藩ゆかりの都市との交流事業』について」事務局からの説明をお願いいたします。
嶋脇次長	(資料「平成 26 年度『南部藩ゆかりの都市との交流事業』について」に基づき説明)
武輪委員長	ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いいたします。
築瀬委員	<p>去年の6月の定例会のときにもお話をしたんですけれども、この交流事業は、目的にあるように非常に意義が大きく、とても大事な事業だと思っています。去年も発言をしたんですが、大館地区における「八戸ふるさと新田城まつり」との関連についてこれから何か考えていくのかということをお尋ねしたら、特にないということで、ただ市長のメッセージを届けているということでありました。このことに関して、今嶋脇次長からお話があったように、向こうの人の思いが逆に強いということは、これから八戸の課題ではないかと思います。ですから、この前、20日に開講式があったのですが、そのときに小林市長さんが子どもたちに、「遠野は新田城まつりと関係があってお殿様が行ったんだよ」とか、「紫波町は飛び地だったんだよ」というようなことをきちんとお話ししてくださいました。私は非常に大事なことだと思ったんです。ただの交流ではなくて、そういった歴史的な背景を背負っていくというふうな、そういったことで非常にいいお話をしてくださったなと思っていました。そういうふうに機会あるごとに、たぶん子どもたちは自分の目の前のことに夢中だと思うんです。ですから大人のほうが、そういった歴史的な繋がりとか、そういったことを話して聞かせるということが非常に大事だと思っていました。</p> <p>さらに言えば、これは代表になった子どもたちだけに話をするのではなくて、なにか学校で代表が出るときに励ましてやると思うんですけれども、そういった</p>

<p>佐々木（敏）教育指導課指導主事</p>	<p>ときに全校生徒に対してもそういった意味合いのことを話してただきだけでも、かなりふるさとを誇りに思う気持ちが強くなるんじゃないかなと思いますので、そういったことも気に留めていただければ有り難いと思います。</p> <p>1つ確認ですが、向こうの方々が三社大祭のときにお見えになるんですが、昨年6月に委員長さんから、「自然の家にバスで行くときに45号線を通っているんですか、海岸線を通っているんですか」ということをお話しなされて、「是非国立公園になった種差・蕪島のルートをしっかりと見せてあげてほしい」という要望が出されたんですが、これはどうなんですか。</p> <p>昨年度は、委員さんがおっしゃるとおり、蕪島から葦毛崎、種差公園を見学して種差漁港までバスを引っ張っていただきました。今年度もその予定です。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>ありがとうございます。さらに、最近新聞紙上で種差の国立公園の整備の様子がいっぱい出ていますよね。そういったところも遠野の子どもたちに紹介しながら、是非宣伝してほしいなと思います。本当はその前に八戸の子どもたちに行って欲しいと思っているんですが、それは別として、是非今回もお願いしたいなと思います。ありがとうございました。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>今のことに関連して、市内に住むある方が種差海岸が好きで、種差海岸の歩道を歩いているらしいんですけども、最近すごく海のほうが見えるように松の枝を払ったんですかね。すごく綺麗に海が見えるようになったということで、国立公園に指定されて、これも一つの効果かなと話されていました。そういうふうなところでも、気がつく方は気がついているんだなと思いました。すごく見通しがよくなったという話をされていました。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>今のことに関連して1つ質問させていただきたいのですが、小学生の社会科の授業の中で八戸市について学ぶ時間がたぶんあると思うんですけども、南部藩という形では出てこないかもしれないんですけども、社会科の授業としてどの程度深めて八戸市内の子どもたちに勉強をさせているのかなと思ったんですけども。</p>
<p>嶋脇次長</p>	<p>これは歴史の題材となりますので、教科とすると6年生の社会科になりますが、残念ながらこれを扱う時間は取られていないと思います。ただ、根城小学校や江南小学校、新井田小学校などそばの学校は、総合的な学習の時間で取り上げているところもあると思うんですけども、いわゆる社会科の教科書としては扱う時間がないということです。</p>

武輪委員長	歴史となると、八戸市を学ぶという時間はなかなか取れないということですか。
嶋脇次長	そうです。
武輪委員長	分かりました。授業の中にないのであれば、今築瀬委員さんがおっしゃったように、代表の方が交流事業に行くにあたって、学校全体としてそういうお話を聞く場面が増えるといいなと思います。
武輪委員長	それでは次に「八戸市ブックスタート事業について」事務局からの説明をお願いいたします。
千葉図書館副館長	(資料「八戸市ブックスタート事業について」に基づき説明)
武輪委員長	ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いいたします。
築瀬委員	<p>教育指導課所管のマイブック推進事業については今回は何もないんですが、現在進行中で新聞紙上も賑わしております。私も個別に子どもたちや保護者の方からも聞いたりするんですが、概ね好評な様子です。一部、私が前に少し危惧した市教委推薦図書ということにこだわって誤解されている方もいらしたんですけども、それ以外は概ね順調にいったいるなと思って、読書の輪が広がっているように感じています。</p> <p>このブックスタート事業もそれと連動して、読書に親しむ環境づくりがなされていくのだろうと期待しています。ちょっとお聞きしたいのが、資料の一番下にブックスタートの歴史と現状を書いていますよね。非常にいい資料で、ああそうかと改めて認識したんですが、半数以上の市町村で実施しているということで、青森県でも青森市や隣の三沢市とかがすでに行っているようなんですが、あと東日本大震災の被災地でもこういう事業をすでに行っているところがあるようですが、八戸市でブックスタート事業を推進するにあたって、何か参考にした取組事例とかはあるんでしょうか。</p>
千葉図書館副館長	まず、青森市がだいぶ前からブックスタートを行っていましたので、青森市のほうに視察に行っておりました。あと、県内は40市町村のうち14市町村ですでに実施しております。青森、三沢、むつ、黒石、平川ということで、三沢が近いので連絡をして様子を聞いたりとか、青森は施設にも参りましたけれども、周辺で実施している市町村にもいろいろ教えていただいて、今回の実施の運びとなり

	<p>ました。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>大変ありがとうございました。あと、大震災に遭われた大船渡や気仙沼など、そういったところの震災を乗り越えるためのブックスタートの新たな取組などというものを参考にしたということはないですか。</p>
<p>千葉図書館副館長</p>	<p>そちらのほうはあまり参考にはしなかったです。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>はい、分かりました。ここにも書いているんですが、さっきのマイブック推進事業でもお話したんですが、教育委員会だけがというのではなくて、やはり市長さんの公約にも関わることで、直接的な関わりがある健康増進課とも連携をとって非常にいい取組だと思っています。期待していますので頑張ってほしいと思います。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>他によろしいでしょうか。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>こだわるようで申し訳ないんですが、さっきお伺いした子どもと親と一緒にオープンな形で本に親しめる場ということ考えた場合に、「はっち」がそういう場としては入りやすいし、活動しやすいのかなと思ったりするんですが、そうするとこれは図書館とか教育委員会の範疇でないというふうなことになってくるんでしょうね。「はっち」の中に子どもたちが遊べる場所がありますが、そういうところでちょっと声を出して騒いでもいいよという感じで、本のまち八戸というふうにしていくのであればそういうふうなことでもいいのかと思っています。すけれども、それは無理なんでしょうかね。答える方も難しいとは思いますが。</p>
<p>藤田図書館長兼 市史編纂室長</p>	<p>「はっち」については、まちづくり文化のほうで主体となってやっているんですけども、委員さんがおっしゃったように5階に「こどもはっち」というのがございます。社会教育委員である平間恵美さんが代表を務められているNPO法人で運営してまして、そこにも児童図書のコーナーを置いているんですよ。それで、小さい子どもさんを連れてきたお母さんとかと一緒に入って、子どもは自由に遊んでいるわけだけども、その中で親子で児童書を読んだり、そういうこともしています。</p>
<p>大庭委員</p>	<p>確かに中には子ども用の本もありますよね。あの辺をちょっと拡充できればいいのかなと思いますね。ありがとうございます。</p>
<p>武輪委員長</p>	<p>このブックスタート事業に関しては、八戸市で生まれた子どもたちに、もれな</p>

く全員に本をプレゼントして読み聞かせの体験をさせたいということから、股関節脱臼の検診日に合わせて行われているのかと思います。もちろん、「はっち」の方が本を読む環境としては非常に良いかと思います。私も母親として、検診に行くというのは、2人目、3人目であればいろいろな状況が分かったり、何時頃行ってどうするとスムーズに受診できるというのが分かってくるんですけども、新米のお母さんたちにとっては生後90日、3ヶ月の赤ちゃんを連れて外出するというのは非常に大冒険であります。子どもが泣いたりして迷惑をかけたらどうしようとか、受診するまでに待たされる時間とか、いろいろな事を考えて健診センターに出向くわけですので、10分程度といってもお母さんや子どもたちにとっては、受診後のもうすぐお家に帰れるという中でちょっとした時間であっても、もしかすると苦痛になるかもしれないんですけども、ここにもありますように受領できなかった場合は健康増進課の窓口で配布するというのもありますし、もちろん無理強いさせるわけではないので、本をお持ちになってお帰りになっていただだけで、読み聞かせの場面に寄らずに帰られる保護者の方もいるとは思いますが、もれなく全員に読み聞かせの場を見せたり本を渡すということで、この検診の会場での設置ということだと思います。

八戸市として、子どもから大人まで本に親しむという部分で、みんなで取り組んでいきたいなと思います。それで私も意地悪な質問ですが、「いないいないばあ」をお持ちの方はこの2冊の本ということですが、もしこちらも持っている方はまた別なものを準備しているのか、「2冊になりますけれどもどうぞ」というふうにお考えなのか、その点をお聞きしたいと思います。

千葉図書館副館長

この2冊の他には考えておりません。というのは、NPOブックスタートのほうから購入するにあたっては、ある程度の数がまとまらないと購入できないような形になっているので、3冊準備してこの中から選んでもらうということで、持っていた場合にもそれはそれで受け取っていただくということで活用していただきたいと思っています。

藤田図書館長兼  
市史編纂室長

「いないいないばあ」が基本なんですけれども、「じゃあじゃあびりびり」、「くだもの」という本も用意しております。

岡本委員

これは2人目でもずっと同じ本から選ぶということですか。今年はこの本で来年は違う本ということではなく、ずっと続くということですよ。

千葉図書館副館長

今年「いないいないばあ」と他2冊ということに決めましたけれども、来年度以降については、また選書をして見直しをして、また新たに考えていきたいと思っています。

岡本委員	<p>よく母親は何人目かになってしまうと自分は初めてではないので、どうしてもすでに済んだことというふうに思いがちなんですけれども、「その子にとっては初めてですよ」というような一言を加えて、そういうことでいい時間を是非過ごしてほしいと思うので、いい本を選ばれているなと思っています。</p> <p>質問なんですけれども、この絵本リストは県で出しているものなのか、それともNPOとかが出されているブックスタート関係のリストなのか、それとも八戸独自のものなんでしょうか。</p>
磯島図書館主幹	<p>ブックスタートパックの中に入れる絵本リストは2種類ございます。1種類はこちらで、これはとりあえず今年度なんです、青森県教育庁生涯学習課で作成しました「絵本で豊かな親子の時間」というもので、赤ちゃん絵本から3、4歳までの絵本リストになっております。今年度はこれを1,800部無料で県生涯学習課のほうからいただきましたので、これも入れます。その他に、A4用紙裏表で、赤ちゃん絵本、ロングセラー、ベストセラーの絵本等を紹介するリストを図書館のほうで作成しております。</p>
岡本委員	<p>はい、ありがとうございます。</p>
武輪委員長	<p>それでは次に参ります。「平成26年度八戸市史講座の開催について」事務局からの説明をお願いいたします。</p>
藤田図書館長兼市史編纂室長	<p>(資料「平成26年度八戸市史講座の開催について」に基づき説明)</p>
武輪委員長	<p>ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いいたします。</p> <p>(質疑なし)</p>
武輪委員長	<p>ご質問等ないようですが、その他事務局から報告事項はありますでしょうか。</p>
武輪委員長	<p>事務局からは以上のごとでございます。それでは最後にその他ですが、委員の皆様方から何かございますでしょうか。</p>
武輪委員長	<p>それではこれを持ちまして、平成26年6月の教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。</p>



	(午後 2 時 50 分終了)
--	-----------------